



れきけん ニュースレター

Vol.18



網走市立郷土博物館全景 ※写真：角幸博

- 特集：網走市立郷土博物館本館が登録有形文化財に！
- 角代表理事が札幌市市政功労者表彰！
- 全国ヘリテージ・マネージャー大会in函館に参加して
- ブラジルを訪ねて ～開催報告～
- おすすめ・れきし系BOOK

●特集：網走市立郷土博物館本館が登録有形文化財に！

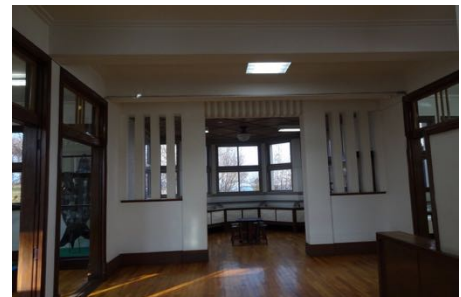
12月5日付官報で、網走市立郷土博物館本館と新館が、登録有形文化財に登録された。本件の登録には、2015(平成27)年1月発行の『網走市立郷土博物館建物調査報告書』(特定非営利活動法人歴史的地域資産研究機構)が大きく貢献しているが、調査委託業務は2014年5月1日～翌2015年1月30日に実施された。

本館は、建築家田上義也(1899-1991)の1930年代を代表する作品であり、また日本を代表する美幌出身の文化人類学者山口昌男(1931-2013)が5歳の時に鮮烈な衝撃を受けた建築であると回想し、また文化人類学への動機付けの一つとなったと語る(「補遺2モダニズムと地方都市」(『挫折の昭和史』岩波書店1995年))建築で、道東地域を代表するモダニズム建築でもある。1936年に「北見郷土館」として開館。北海道において博物館として設計・建設された最初期の建物でもある。オホーツク文化解明の端緒となった史跡最寄(モヨロ)貝塚の発見者、米村喜男衛が収集した出土品を中心に、地域資料を収蔵・展示する博物館として建設され、施工は網走地域の大形木造建築を多く手掛けた穴戸栄左衛門の請負。

建物は市街地を臨む桂ヶ岡公園丘陵にあり、園内に所在するアイヌ文化の史跡桂ヶ岡砦跡の西側に位置する。玄関を中心に左右水平に低く伸びるライト風の外観と、中央塔屋のドーム屋根、円柱状の太い柱型等の組み合わせをもち、隣接するアイヌ文化の古城を意識した土着的で力強い表現となっている。外壁を一部タイルやブロックで覆う木造2階建。塔屋の赤いドーム屋根は、北の文化の灯台を意識したという。田上はF.L.ライトのもとで帝国ホテルの建設に従事しており、十字形の平面や寄棟屋根の深い軒の出、軒下に接する窓の開口など、ライト風な建築意匠を随所に展開している。一方、玄関左右の額縁状のアーデコ風壁面や塔屋に通じるらせん階段、スリット状縦長窓など、当時の田上が多用した先進的で独創性の高い建築要素もみられ、田上の記念碑的な存在である。

新館も田上設計で、開館25年を記念して1961(昭和36)年に増築された。当初の考古・民族資料に加え、自然や歴史に係わる資料の増加で、新たな展示・収蔵スペースの必要性が高まり、また1952(昭和27)年の博物館法制定により、博物館としての機能充実を求められたことによる増築であった。装飾を廃し、直線を重視した現代的な造形で、北海道を代表する建築家・田上義也の作品群にあって、昭和初期建設の本館と対比しつつも調和を模索した田上の戦後の建築観をみることができる。

12月1日に、文化審議会の答申を受けて一足先に「博物館登録有形文化財記念の集い」が同館で開催され、角が「郷土博物館の魅力と建築家・田上義也」と題して講演、約60名の参加を得、また参加者に『登録有形文化財網走市立郷土博物館 since1936 建物ガイドブック』も配布された。後半にはオホーツク管内を拠点に活動するフルートとギターのユニット「ホラネロ」のコンサートも本館ロビーで開催され、音楽家としても活動した田上の作品にふさわしい集いであった。(角幸博)



2階記念室のスリット状の縦長窓



塔屋に通じるらせん階段
※写真：3点とも角幸博



増築棟を含む当時の完成予想図

●角代表理事が札幌市市政功労者表彰！

札幌市は11月21日、公職などを長く務め、市政の発展と公益の増進に貢献した方を表彰する、令和元年札幌市市政功労者表彰の表彰式が開催されました。建築分野の専門家として、札幌市文化財保護審議会及び札幌市都市景観審議会の附属機関委員を歴任し、多年にわたり市政の発展に大きく貢献したとして、当法人の角代表理事が表彰されました。おめでとうございます！！（かみ）



●全国ヘリテージ・マネージャー大会in函館に参加して

全国のヘリテージ・マネージャー（以下、HM）の仕組みは、HMの有資格者個人とHM自ら活動をする地域ネットワーク団体と、HM講座の各地事務局組織＝各地の建築士会等、NPOれきけんもその一つ＝賛同団体などに分かれています。それらの中で、地域ネットワーク団体と賛同団体が「全国HMネットワーク協議会」を作って、年に一度の総会と全国HM大会を開催しています。その協議会の賛同団体として、事前見学会、その後の総会と大交流会、次の日の全国大会に参加してきました。今回の開催場所は函館市なので、北海道メンバーが実行委の役割を務め、NPOれきけんも大変ささやかですが、受付補助や名札配り、見学会補助などでお手伝いを致しました。また今回の全国大会では「歴史的建造物を使い続ける～持続する地域・まちづくり～」というテーマで、北海道で活動するメンバーが登壇し、それぞれの活動や課題を話題提供いたしました。こちらでは北海道ヘリテージ・コーディネーターの東田が登壇し、北海道建築士会中標津支部長の佐々木優さんと中標津町での活動事例を報告させていただきました。その後に意見交換があり、使い続けるには他との連携が重要であることから、特に北海道ではヘリテージ・マネージャーだけでなく、有識者、学芸員、職人さん、ヘリテージ・コーディネーターや市民などとの多様なネットワークの有用性について、角先生からの発言がありました。会場からは、北海道のネットワーク形成の現状について、これからの活動の参考になったとの感想が聞かれ、大変感謝され、とても嬉しく思いました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。（東田秀美）



●ブラジルを訪ねて ～開催報告～

10月10日（木）、テラス計画で27名が参加し、特別講演会を開催しました。当日はなんと、現地で角代表理事を案内してくださった作間さんご夫妻も駆けつけてくれました。ちょうど北海道に旅行中とのことで参加が叶いました。角代表と作間さんは50年来のご友人で、今でも行き来が続いているとのこと。持つべきものは友と健康と目的と趣味とお金（は少々）、と言いますが、本当に羨ましいですね。

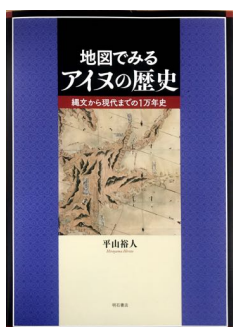
そしてオスカー・ニーマイヤーの建築は美しいブラジル・モダニズム建築の父とも呼ばれ、2012年、104歳で亡くなる直前まで建築に関わっていたとのこと。「自由な曲線」が多用された建築や、ブラジリアの都市計画は1987年に近代都市では初めての世界遺産にも登録されています。是非とも実物を見に行きたい！と心に誓った時間でした。（かみ）



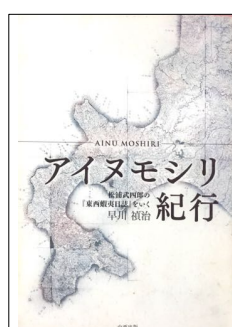
最前列、右から2人目と3人目が作間さんご夫妻

●おすすめ・れきし系BOOK

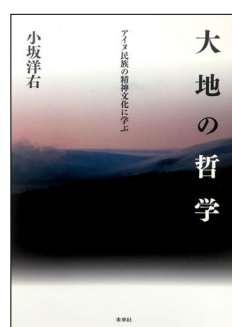
※2020年4月には白老に民族共生象徴空間が誕生します。本号はアイヌ関連の書籍にしてみました。



- 地図で見るアイヌの歴史
- 著者：平山裕人
- 発行者：大江道雅
- 発行所：明石書店



- アイヌモシリ紀行
- 著者：早川禎治
- 発行者：林下英二
- 発行所：中西出版



- 大地の哲学
- 著者：小坂洋右
- 発行者：西谷能英
- 発行所：未来舎

★編集後記★

令和元年は皆さんにとってどんな年でしたか？

8ヶ月という短い年でしたが、天皇の即位、ラグビーW杯開催、消費税10%、台風被害、ノーベル賞受賞、首里城消失など様々な出来事がありました。北海道では何と言っても網走市立郷土博物館本館と新館が、登録有形文化財に登録されたことでしょうか。新しい年も歴史的な地域資産が一つでも多く残っていくことを目指して行きたいと思えます！（かみ）



～お知らせ～ 当NPOでは会員の皆さまからのご要望を受け、会員相互の交流を図ることを目的に、公開に同意いただいた方を記載した会員名簿をホームページ（「入会のご案内」のページ）で公開いたしました。
<http://nporekiken.com/wp-content/uploads/2019/11/会員名簿（2019.11.30）.pdf>